宮城学院女子大学後援会会報

MIYAGI GAKUIN SUPPOTERS REPORT

vol.1

対談

～学校のこれから、後援会のこれから～

平川 新　学 長　×　三井 精一　後援会長（株式会社仙台銀行 前会長）

Q：学生のための活動支援や就職支援について、学校と後援会それぞれの立場から、考えをお聞かせください。

平川学長（以下学長）：近年、学生たちの生活は多様化しています。大学としては、あらゆる状況下にある学生に対し、学ぶ機会を均等に提供し、サポートしなくてはなりません。現在も奨学金をはじめ、さまざまな形で支援活動を行っていますが、今後は支援体制を一層強化していく必要があります。大学と学生の双方にとって、後援会が果たす役割は大きく、今後もさらなるご協力をお願いしたいと考えています。

三井後援会長（以下後援会長）：当会の今年度の活動方針は、5月31日の総会で決定しました。具体的な支援策は学生たちの意思を尊重しながら確実なサポートを、と進めています。しかし昨今は学生数の減少とともに、後援会費収入も減少傾向にあります。これに歯止めをかけ、学生数を増加させる方策の一つとして、就職支援活動は非常に重要でしょう。同時に、貴重な財源を拠出されている保護者の方々にご満足いただける後援会活動でなければなりません。今後も、大学と後援会が力強く、共に歩んで行くべきだと考えます。

サークル活動を通じた絆づくりをバックアップ

学長：私は、仙台経済界を支えてきた三井会長の就任を、大変心強く思っています。会長からは後援会と大学双方に対し、非常に的確なご意見をいただきました。我々はそれを深く受け止め、学生の育成のために具現化する使命があります。本学のサークル活動は文化系、体育会系とも非常に活発です。後援会からの貴重な活動費支援を学生たちの励みとしながら、より一層有効に活用していきます。

後援会長：大学で部活動を4年間やり通すことは、企業や社会からの評価が高いだけでなく、人間形成の意味でも意義があるものです。

学長：サークル活動では、日々の修練や取り組みが精神力を鍛え、作り上げます。同時に生涯の友、仲間づくりができます。学生は勉学と課外活動の2本柱を磨くことで、健全で有意義な学生生活を送ることができるのです。

後援会長：私も高校、大学と7年間野球に打ち込みました。今でも、悩みごとを相談するのは部活の仲間です。文化系、体育会系を問わず、いわゆる「同じ釜の飯を食べた」仲間同士の絆は切っても切れません。後援会としても、その深い関係づくりをバックアップしていきたいです。

学生の専門性を生かす、被災地ボランティア活動等を積極支援

学長：企業側が求める人間像は、学力に加え精神力や協調性、オリジナリティーを持ち合わせていなければなりません。このような力を在学中に身につけられるよう、大学側はその機会を提供できているかどうかの再点検も必要です。一方で震災後、学生たちは自ら学科の専門性を生かし、津波被災地の保育園や小学校で教育支援をするなど、様々なボランティア活動を続けています。特に食品栄養学科の学生たちは、仮設住宅での食事指導が喜ばれたようです。大学生による社会貢献は今後さらに重要になってくることから、学内ではリエゾンアクションセンターを設置して、学内活動の情報と、学外からのニーズや情報等を収集し、内外を繋ぐ役割を担っています。

後援会長：ボランティア活動では、どこに行っても食事や宿泊場所を自分で確保しなければなりません。後援会としては、活動資金援助に加え、石巻や気仙沼など被災地の後援会メンバーから情報を集めて提供するなど、支援・後援体制を整えていきたいと考えています。

裏面に続く ▶

Q：宮城学院が2年後に迎える、創立130周年記念事業についてお聞かせください。

学長：宮城学院が東北地域の女子教育における先進的な役割を130年にわたって果たしてきたことを再認識し、今後はこれまで以上に大きな役割を果たす取り組みが必要であると感じています。建学の精神を大切にしつつ、新しい時代にも果敢にチャレンジしたいと思います。

後援会長：130周年は、未来への新たな第一歩です。これを契機として、宮城学院が未来永劫継続していく基盤を作るため、理事会・学校・後援会が三位一体となって推進する必要があります。後援会は一丸となって学校と協力し、各企業を訪問して寄付金を募り、OGの方々にも声がけしていきます。同時に企業訪問に先生方も同行していただければ、企業情報をキャッチし、教育活動や就職活動に活かせると考えています。

学長：今年4月に着任して以来、私も数多くの企業を訪問しましたが、行く先々で大変喜ばれ、そこから学生の就職支援にも繋がっています。我々が企業に足を運び、学生の就職先を丁寧に開拓していくことの重要性を再認識をしています。今回の130周年に向けた寄付についても、積極的にお願いするつもりです。

後援会長：企業側からみると、アカデミックな空間である学校は立ち入りにくく、情報交換の機会が少ないのが現状です。しかし企業は、社会のニーズに応える責務もあるため、学院長や学長が寄付の要請に出向けば応対します。これこそがお互いの情報を発信し合う、絶好の機会といえるでしょう。普段は機会に恵まれなくても、130周年記念事業という理由であれば訪問しやすく、宮城学院の教育理念や、多才な卒業生を紹介することも可能です。後援会はそのための後押し役を果たしていくつもりです。

学長：後援会長のご指導を仰ぎながら、実のある企業訪問ができればと考えています。

後援会長：5月の後援会総会に初めて参加しましたが、保護者の参加が少ないとの印象を持ちました。総会はもとより、各地区の後援会により多くの保護者に参加いただくことで、宮城学院の輪が拡大していくものと考えます。この課題については、後援会と大学が協力し合って取り組まなければならないでしょう。

学長：保護者の中には、大学生になった子どもには干渉せず、進路は自分自身で考えるべきというスタンスの方が多いようです。しかし後援会は、大学と保護者との関係づくりのための組織です。大学から勉学状況や生活情報を提供しますし、保護者同士の情報交換の場としても活用できます。地区後援会開催と併せ、今後は日常的に相談に対応できる体制を整えることを考えています。保護者の方々にはぜひ後援会を活用していただきたいです。

Campus Report（キャンパスレポート）

闘志　笑顔　食欲？

新入生歓迎会が開催されました

5月22日に新入生歓迎会が開催されました。今年も、バレーボール、バドミントン、ドッヂボール、腕相撲の4種目で熱く楽しい戦いが繰り広げられました。先生や学生部からランチが配られここでも笑顔。入学間もない1年生も先輩たちと交流を深めました。

腕相撲

戦っている人たち以上に応援している人の方が真剣？

ダンス

ここでは勝負を忘れて、笑顔でダンシング！

ランチタイム

やっぱりメインイベントはランチタイム。みんな今日一番の笑顔！

宮城学院女子大学後援会事務局（大学事務部教育研究支援グループ庶務担当内）
〒981-8557 仙台市青葉区桜ケ丘9-1-1
TEL 022-279-4698　FAX 022-279-7566　E-mail syomu@mgu.ac.jp.

2014年度後援会総会が開催されました

ミニコンサート

オルガニストとして活躍する本学非常勤講師・小野 なおみのオルガン独奏と、音楽科研究生・佐藤 麻美がソプラノ独唱を披露しました

5月31日(土)、新緑薫る宮城学院女子大学のキャンパスで、2014年度大学後援会総会が開催されました。当日は東北6県から400人の保護者の方々が参加し、午前中に開催されたミニコンサートでは礼拝堂がたくさんの人で埋まりました。

午後からは総会が行われ、海鋒博美会長の司会進行で、2013年度事業報告、収支決算報告、監査報告、2014年度事業計画、収支予算、大学後援会会則改定、次期会長の推挙が提案され、すべての審議が承認されました。なお、新会長には三井精一氏が選出されました。

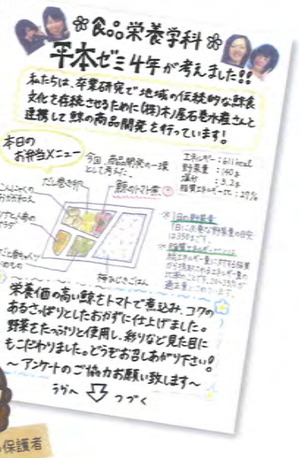
総会終了後は、本学教授による講演・本学の就職状況報告が続き、その後は各学科に分かれて学業成績や学生生活などについて先生方とクラス懇談会が行われました。また、就職個別相談会や学生によるキャンパスツアーにも多数の方が訪れ、充実した1日になりました。

就職個別相談会

総会の前後に実施された就職個別相談会にはたくさんの保護者が参加しました

昼食

食品栄養学科・平本ゼミの学生たちがオリジナルのお弁当をプロデュースしました



同じ学科の4年生がつくったお弁当にはびっくりしましたし、とても美味しかったです。地元の伝統文化を、地域の企業さんと一緒に研究されて、商品開発に携わっているそうで、とても頼もしいですね。

食品栄養学科1年生の保護者

キャンパスツアー

学生が案内役となってキャンパスツアーを実施。食堂や生協、図書館、教室などを見学しました

親元から離れて、初めての一人暮らし、大学生活を送っているのでなかなか話す機会も少なく心配していました。キャンパス内をいろいろ案内してもらって施設が充実しているし、気軽に相談できる環境があるので安心しました。

人間文化学科1年生の保護者

総会

宗教センター所長・新免 貢による開会礼拝

会長・海鋒 博美による挨拶で開会

今年4月に就任した学長・平川 新による挨拶

副会長・佐藤 祐見子による閉会挨拶

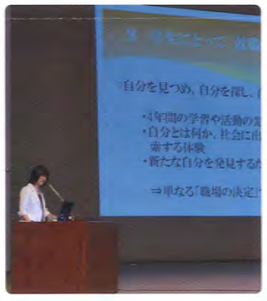
新会長・三井 精一による就任挨拶

現会長から新会長へバトンタッチ

講演

発達臨床学科教授・足立 智昭による講演。メンタルヘルスの悩みを持つ学生への対策として、「安心・信頼できる人のいる場所、心の安全空間」である家庭の重要性、その対応方法について、学生相談室長でもある足立教授から説明がありました

学生部報告



児童教育学科教授・磯部 裕子による報告。「2013年度の本学における就職状況」について学生部長でもある磯部教授から説明がありました

今の就職状況や就職活動は、私たちの時代とはまったく違うので不安だったのですが、今日、具体的な数字やサポート体制、保護者の心構えなどのお話が聞けてよかったです。

発達臨床学科3年生の保護者